

八色西瓜通信 No.7



～交配と前後の管理～

令和6年6月6日
八色西瓜生産組合指導部
JAみなみ魚沼園芸畜産課
南魚沼農業普及指導センター

【生育状況等】

○4月4半旬定植は交配中、4月5半旬定植は交配開始、5月1半旬定植は2番花（交配する雌花の1つ前）が開花中、3番花（交配する雌花）がつぼみの状態。

→降雨があってもマルチ内は意外と乾いています。**交配5日前と交配後7～10日以内にしっかりとかん水**し、雌花の充実と玉肥大を促進しましょう。

○密閉栽培は5月末から除覆開始。
5月下旬の低夜温の影響で、両性花の発生が見られます。

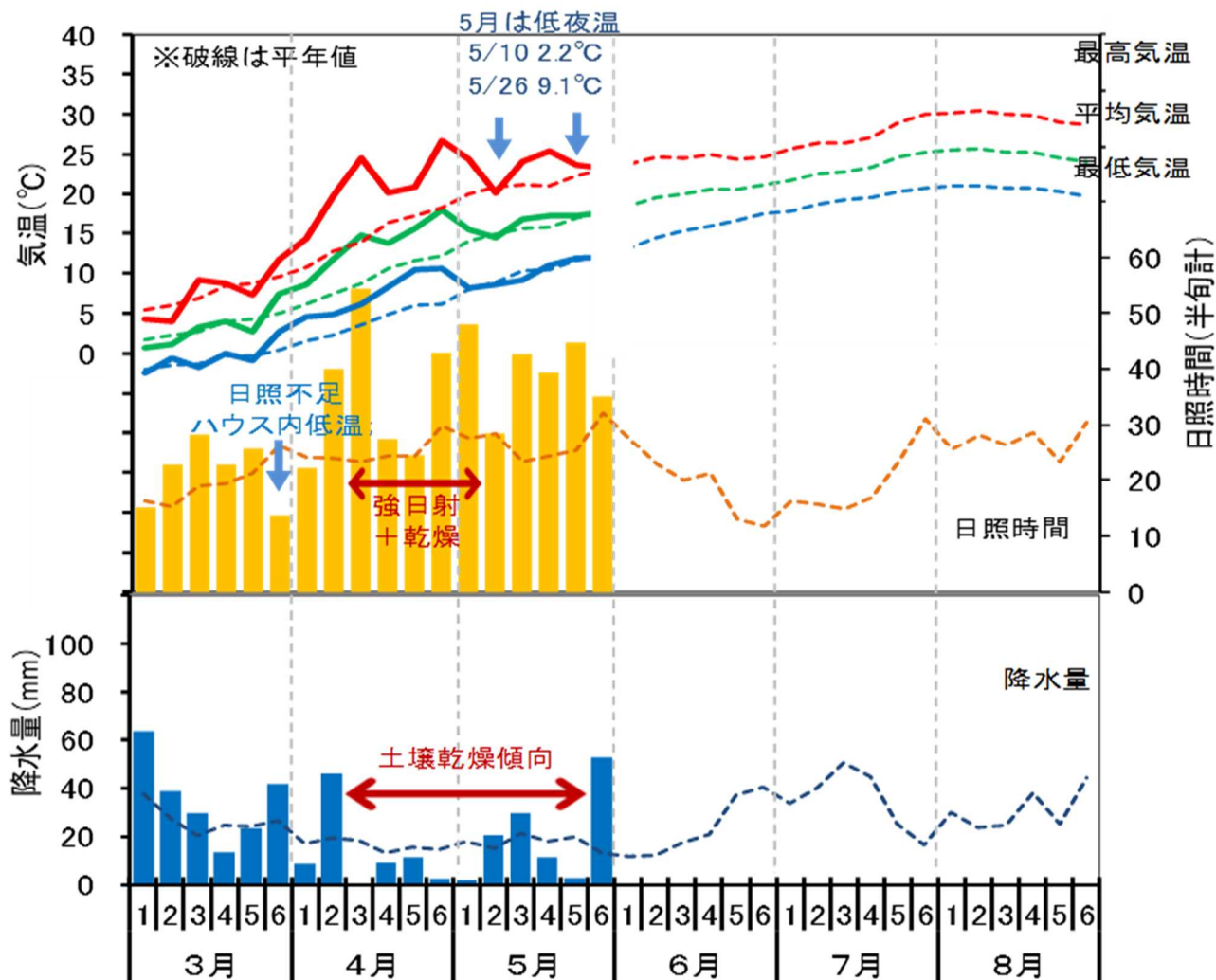
→花質を確認し、状況によっては着果位置を変更してください。

○除覆やつる引きで、トンネル外に茎葉が出る時期になりました。

→定期防除を開始しましょう。

【5月までの気象推移】

南魚沼市城内開発センター(標高170m)の気象推移



【1か月予報（6月）】 5/31 気象庁HPより

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
北陸地方	低30 並40 高30% ほぼ平年並の見込み	少40 並30 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み
数値は予想される出現確率（%）です	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）



交配する雌花は3～4番花

○子づる 20 節前後の3～4番目の雌花で交配します。

- 下位節(2番)は摘果してください。
→ほとんどが自然落果しますが、着果する場合があります。残すと、本命の3～4番が着果しづらくなります。
- 交配に入ったら、交配時以外、つる先には触らないこと。

【開花周期】

- 雌花が咲く間隔は約5節(葉)ごと、開花周期は4～5日(±2日)。
- 2～3番雌花の5～6節(葉)先に、3～4番の雌花が開花。
→1節(葉)で約 10 cm節間が伸びるので、2～3番雌花から 50～70 cm先に、3～4番雌花が開花します。

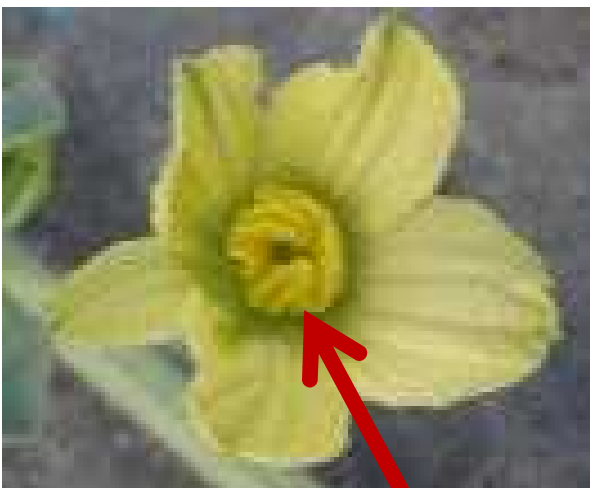
【良質な雌花とは】

- 花梗がつり針状に湾曲し、花の着生がつるより高い位置になります。



【花粉の能力（花粉の発芽率）と量】

- 開花当日の気温が高く、晴天ほど、花粉能力が高まり、量も多くなります。
- 花粉形成期（開花 10～14 日前）に日照不足や低温が続くと、葯（花粉が入っている部分）が小さく、量が少なくなります。



良い雄花：葯が大きい



不良な雄花：葯が小さい



交配作業は午前中に！

作業前に花粉が出ているか確認

- 交配は必ず午前中に行いましょう。
(午前が最も受精能力が高い＝着果安定)
- 夜温や湿度により、交配開始の時間は変化します。



花粉が出ているか、触って確認してから作業開始しましょう。

夜温

- 高い→開花時間は早い
- 低い→開花時間は遅い
- ・最低夜温 12℃以上で順調に開花

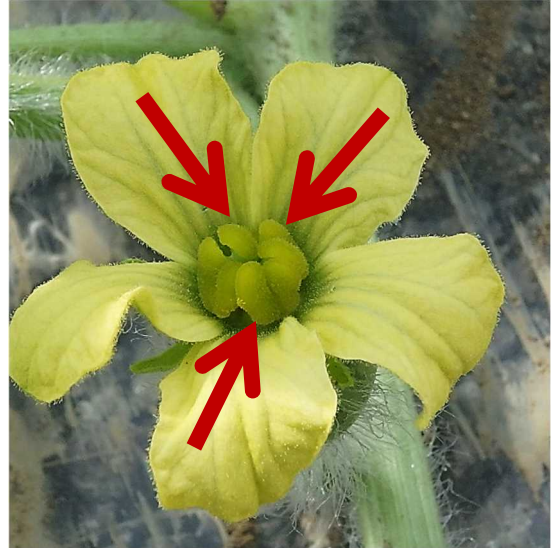
湿度

- 低い→花粉が出やすい
- 高い→花粉が出にくい
- ※雄花は、湿度が高いと開花していても花粉が出ていない場合があります。
- 必ず、触って花粉が出ているか確認！

交配作業の手順

①柱頭(めしべ)全体にまんべんなく花粉をつけます。

- 柱頭は大まかに3ブロックに分かれています。各ブロックに花粉がつくよう意識しましょう。
(花粉が偏ると、変形果になります)



- 花粉が多い時
→ 雄花1個で雌花3個程度を交配できる
- 花粉が少ない時
→ 雄花数個がかりで雌花1個という時もある

※今年は5月下旬の低温の影響で、花粉が少ない可能性あり



葯は脇から割れて花粉が出てくるので、雄花は斜め横向きで雌花に当てるとよい

②交配したら、着果棒を立てます

- ・2日ごとに着果棒の色を変えます。
- ・交配開始日と色の順番を忘れないよう、記録しておきましょう。



改良整枝栽培 交配前後の管理

①最終つる引き

- ・交配花の位置が、マルチの中心～ややつる先側に来るよう、つるを引き戻します。
- ・トンネル内が混まないように、株元の孫づるはトンネル外へ出します。
- ・トンネル内の混んでいる孫づるは摘心します。
(雌花に孫づるが被さりすぎないように)

②雌花の充実のため、保温とかん水を行いましょう

- ・交配前後の保温管理
→夜温 15℃以上(目標 15～18℃)
- ・開花3～5日前までにかん水
→目安は約6リットル/株

③交配後は保温＋かん水で玉肥大

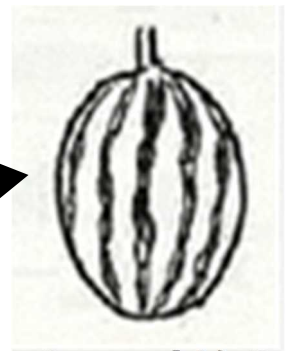
- ・交配後は、着果する先側の換気量(開度)を少なめにして保温
(無理な蒸し込みは避けましょう)
- ・交配7～10日以内にかん水
→目安は6～8リットル/株

④鶏卵大頃に摘果し、肥大を促進

- ・摘果は、鶏卵大頃までに行います。

残す果実

- ・つるの太さが同程度
- ・果実が卵形のもの
- ・大きさ・開花が同程度



(同一株内で開花が3日以内に揃う)

※1つるに2果連続で交配してしまった時は、早めに1果にすること。

放置すると玉肥大が揃わなくなる。

⑤ソフトボール大になるまでに「すいかマット」を敷きましょう。





密閉栽培 交配前後の管理

天気予報を見ながら、作業遅れなく！

①トンネル除覆前

- ・開花5～7日前にかん水
→雌花・雄花を充実させる。

②トンネル除覆後

- ・つるを広げ、配置する。
- ・間隔は大玉 20 cm、小玉 10～15 cm

③摘果

- ・株元の果実、大玉は低節位の果実を摘果
(マルチ上の果実は全て摘果)

④開花(交配)

- ・3～4番花に一斉着果
→同一株内で3日以内に開花・着果が揃うようにする
- ・着果数の目安
大玉…2つるに1果
小玉…1つるに1果
- ・着果棒は開花時に設置する。

⑤選果・摘果

- ・卵大～ソフトボール大に肥大する間に、果形を見極めて摘果

※つる先が細く草勢が弱い、または変形果が多い場合

→摘果し、着果位置を上げる

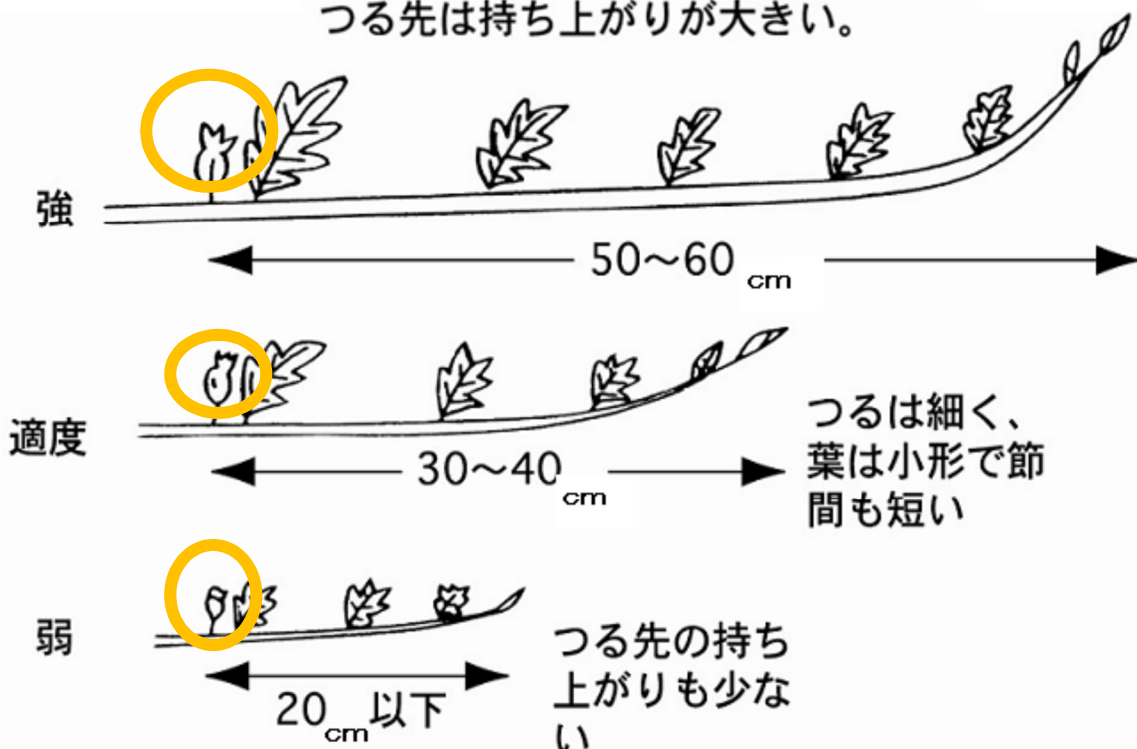
⑥マット敷き・かん水

- ・大玉はソフトボール大、小玉は交配10～14日後までにすいかマットを敷く。
- ・かん水し、初期肥大を促す。

※草勢が低下している場合は、液肥で草勢回復させる。

【草勢の目安】 開花位置やつる先を観察

つるは太く、葉は大形で節間は長く、
つる先は持ち上がり大きい。



⑦収穫までの摘果作業

- ・大玉は更に着果してくるため、2回以上は巡回して摘果する。
- ・大玉は交配 30 日頃までに草勢を見て、着果数を調整する。

不明な点・指導が必要なときは下記担当まで連絡ください。

みなみ魚沼農業協同組合 園芸畜産課 関 TEL:777-3180

南魚沼農業普及指導センター 近藤 TEL:772-3337